

号外



Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外26号です。表面は、研修会への参加報告です。裏面は、認定看護師からのお知らせです。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域医療連携室より

～研修会に参加して～

8月24日（土）、精華町役場交流ホールにて開催されました、相楽医師会主催「患者さん 利用者さん ご家族からのハラスメントどうしていますか」と題された専門職対象の研修会に参加させて頂きました。午後5時30分からの遅めのスタートでしたが、「参加してとても良かった」と思える研修会でした。当組合からは、山際看護部長、放射線科木村課長、老健やましろ大溝副施設長、三村管理部長、中嶋ソーシャルワーカー、南出が参加しました。全体としては、相楽医師会の先生方や行政の担当の方々、地域の専門職の方々など約50名が参加されていました。

*

伊左治友子先生（伊左治医院 院長）による総合司会のもと、三沢あき子先生（京都府山城南保健所 所長）による開会挨拶で研修会が開始となりました。三沢先生の開会挨拶に続き、「職員が安心して働けるハラスメントのない労働環境を構築するために」と題して、寺村晃太郎先生（知足庵社会保険労務士事務所）による講演がありました。講演の冒頭では、ハラスメントの基礎的知識について事例を交えてわかりやすく教えて頂き、その後はこの研修会のメインテーマである、患者さんや利用者さん、ご家族からのハラスメントの現状や対策などについて教えて頂きました。講演の中で特に印象に残ったのは、（患者さんや利用者さんなどが）ハラスメントを起すきっかけがあるのではないかと原因を探ってみることの必要性や、個人の問題として対処するのではなく職場（組織）として対処することの重要性です。また、伊左治先生がおっしゃっていましたが、これまでは当たり前のこととして（よくあることとして）気にとめず、“ハラスメントかどうか”という尺度で考えていなかったこと自体が問題なのかもしれません。研修会の途中ではグループワークもありましたが、時間が押していたこともあり短時間のグループワークとなってしまい残念でしたが、これまでの研修会ではハラスメントが取り上げられたことがないように思いますので、グループワークはとても新鮮でした。そして、山口泰司先生（相楽医師会 会長）による閉会の挨拶で、研修会は終了となりました。

*

研修会は終了予定時刻を30分程度超過し、午後8時頃に終了となりました。盛り沢山の内容でしたが、まだまだ学びたいと思いました。そして、この研修会で学んだことを職場や地域で活かしていければと思いました。研修会終了後、外は風が吹いて涼しく、秋の気配が感じられました。充実した研修会でした。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

感染管理認定看護師より

～ 認定看護師が地域に貢献できること ～



2017年より当院の認定看護師達の『地域医療への貢献したい』との熱い思いから、地域の医療・介護・福祉関係者を対象に出張講座を実施しています。おかげさまで、今年で3年目となり、依頼数は年々増加しています。出張に伺う中で、それぞれの施設の抱える問題や悩みなど

相談を受けることがあります。

最近では電話での相談を受けることが多くなってきました。私は感染管理認定看護師ですので、感染対策について相談を受けることがあります。最近よく相談があるのは、C.difficile腸炎の患者さんの対応についてです。

CD：シーディー（C.difficile）腸炎の治療を受けて施設に戻ってきたけれど、おむつ交換や入浴介助は、普通にしても大丈夫なのか、下痢がまた出できた時はどうしたら良いのか、などです。

CD腸炎は、抗菌薬の投与などにより、腸内環境が乱されたことが発端となり、C.difficile菌が腸内で活動し始め、毒素を出すことにより引き起こされる腸炎です。免疫力の低下している人や腸内環境が乱れる要素のある人などは、排泄物に含まれるCD（C.difficile）菌が、手などについて、口から腸に入り込むと感染する恐れがあります。しかし、下痢症状が治まっている状態では、標準予防策（手洗い、排泄物を触る時には手袋・エプロンの装着）で問題はなりません。入浴介助も通常通りで大丈夫です。ただし、下痢などの症状があれば、早めに看護師や医師に相談する必要があります。

昨今では、検査技術の進歩もあり、昔はわからなかった細菌やウイルスが検出されるようになり、『感染対策がややこしくなった。』と言われることも多いです。医療現場以外では、細菌やウイルスの名前や怖さが先行して伝えられていることもあり、不安感から過剰な対策を取られている施設も時々見受けられます。介護する側もされる側も安心して生活できるように、正しい情報を伝え、知ってもらうことが、地域における認定看護師の役割の一つと考えています。

当院では、皮膚排泄ケア、感染管理、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、摂食・嚥下障害看護、救急看護、認知症看護の9分野の認定看護師が活動しています。出張研修のほか、年3回の認定看護師セミナー、相談業務も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。（感染管理認定看護師 大植 由紀子）

夏期休暇中の受け入れの実績について

～ 引き続き、よろしくお願ひします ～

今夏、地域の皆様の夏期休暇などにより一時的に在宅医療が途切れるなどの理由で、9名の患者様に“彩り”をご利用頂きました。ご紹介頂きありがとうございます。秋以降の連休や年末年始など、引き続き、受け入れさせていただきますので、お気軽にご利用下さい。

（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

速報